

現代俳句3人3句選アンケート

作家別ランキング

2025年8~9月実施

作者	順位	選句	選句数	選句数計
金子兜太	3	おおかみに螢が一つ付いていた	8	34
	3	梅咲いて庭中に青鮫が来ている	8	
	6	彎曲し火傷し爆心地のマラソン	4	
	6	銀行員等朝より螢光す鳥賊のごとく	4	
	6	人体冷えて東北白い花盛り	4	
	39	夏落葉有髪も禿頭もゆくよ	1	
	39	原爆許すまじ蟹かつかつと瓦礫あゆむ	1	
	39	男鹿の荒波黒きは耕す男の眼	1	
	39	死にし骨は海に捨つべし沢庵嗜む	1	
	39	暗黒や関東平野に火事一つ	1	
池田澄子	39	頭痛の心痛の腰痛のコスモス	1	13
	1	じゃんけんで負けて蚩に生まれたの	11	
	39	沖がすみ人のほとんど知り合わず	1	
渡邊白泉	39	蝶よ川の向こうの蝶は邪魔ですか	1	13
	1	戦争が廊下の奥に立つてみた	11	
	39	地平より原爆に照らされたき日	1	
富澤赤黄男	39	夏の海水兵ひとり紛失す	1	11
	5	蝶墜ちて大音響の結氷期	7	
	39	美しきネオンの中に失職せり	1	
	39	夕焼のやうな魚をさげてくる	1	
	39	灯をともし潤子のやうな小さいランプ	1	
鈴木六林男	39	やがてランプに戦場の深い闇がくるぞ	1	10
	6	暗闇の眼玉濡さず泳ぐなり	4	
	13	遺品あり岩波文庫『阿部一族』	3	
	19	天にも淋しからんに燕子花	2	
高野ムツオ	39	暗い地上へあがってきたのは俺かも知れぬ	1	10
	13	泥かぶるたびに角組み光る蘆	3	
	19	陽炎より手が出て握り飯掴む	2	
	19	車にも仰臥という死春の月	2	
	39	泥酔われら山脈に似る山脈となれず	1	
	39	出力は無限吹雪の夜の白鳥	1	
西東三鬼	39	万の翅見えて来るなり虫の闇	1	9
	6	広島や卵食ふ時口ひらく	4	
	13	水枕ガバリと寒い海がある	3	
攝津幸彦	19	算術の少年しのび泣けり夏	2	7
	13	国家よりワタクシ大事さくらんば	3	
	19	露地裏を夜汽車と思ふ金魚かな	2	
	39	階段を濡らして昼が来てみたり	1	
	39	南国に死して御恩のみなみかぜ	1	

作者	順位	選句	選句数	選句数計
高柳重信	19	身をそらす虹の/絶巓/処刑台	2	7
	19	船焼き捨てし/船長は//泳ぐかな	2	
	39	日が/ 落ちて/山脈といふ/言葉かな	1	
	39	軍鼓鳴り 荒涼と 秋の 痒となる (4行)	1	
	39	杭のごとく/墓/たちならび/うちこまれ	1	
阿部完市	13	少年来る無心に充分に刺すために	3	6
	39	栃木にいろいろ雨のたましいもいたり	1	
	39	ポーランド三日四日五日間である	1	
	39	ローソクもつてみんなはなれてゆきむほん	1	
飯島晴子	39	かくまでもみづれるとは荒蝦夷 (あらえみし)	1	6
	39	葛の花来るなと言つたではないか	1	
	39	はんざきの傷くれなゐにひらく夜	1	
	39	泉の底に一本の匙夏了る	1	
	39	八頭いづこより刃をいるとも	1	
	39	寂しいは寂しいです春霞	1	
加藤楸邨	19	雉子の眸のかうかうとして売られけり	2	6
	19	火の奥に牡丹崩るるさまを見つ	2	
	39	天の川わたるお多福豆一列	1	
	39	木の葉ぶりやまずいそぐないそぐなよ	1	
三橋敏雄	6	あやまちはくりかへします秋の暮	4	6
	39	いつせいに柱の燃ゆる都かな	1	
	39	鐵を食ふ鐵バクテリア鐵の中	1	
宇多喜代子	13	八月の赤子はいまも宙を蹴る	3	5
	39	山ひとつ潰したあの女郎花	1	
	39	天空は生者に深し青鷹 (もうがえり)	1	
坪内稔典	19	たんぽぽのぽぽのあたりが火事ですよ	2	5
	19	三月の甘納豆のうふふふふ	2	
	39	がんばるわなんて言うなよ草の花	1	
赤尾兜子	6	音楽漂う岸侵しゆく蛇の飢	4	4
大井恒行	39	針は今夜かがやくことがあるだろうか	1	4
	39	林檎の花散るは都の外ならん	1	
	39	除染また移染にしかず冬の旅	1	
	39	戦争に注意 白線の内側へ	1	
石田波郷	39	寒椿つひに一日のふところ手	1	4
	39	吹きおこる秋風鶴をあゆましむ	1	
	39	春雪三日祭の如く過ぎにけり	1	
	39	雪はしづかにゆたかにはやし屍室	1	
高屋窓秋	13	頭の中で白い夏野となつてゐる	3	4
	39	山鳩よみればまはりに雪がふる	1	
松澤昭	39	床や馬現れて海の上	1	4
	39	闇凍てて遠くの闇の白らむなり	1	
	39	夜は子の眼しきつめ流氷期	1	
	39	天上のやうに耕しあじめたる	1	
山口聟子	39	夏の河赤き鉄鎖のはし浸る	1	4
	39	夏草に汽罐車の車輪来て止る	1	
	39	海に出て木枯帰るところなし	1	
	39	炎天の遠き帆やわが心の帆	1	

作者	順位	選句	選句数	選句数計
佐藤鬼房	39	愛痛きまで雷鳴の蒼樹なり	1	4
	39	陰に生る麦尊けれ青山河	1	
	39	吐瀉のたび身内をミカドアゲハ過ぐ	1	
	39	齢來て娶るや寒き夜の崖	1	
正木ゆう子	39	たらちねのははそのはは母は羽羽	1	3
	39	水の地球すこしはなれて春の月	1	
	39	美しいデータとさみしいデータに雪	1	
黒田杏子	39	白葱のひかりの棒をいま刻む	1	3
	39	花満ちて花散りてこの世つきの世	1	
	39	磨崖仏おほむらさきを放ちけり	1	
藤田湘子	39	あめんぼと雨とあめんぼと雨と	1	3
	39	鯉老いて真中を行く秋の暮	1	
	39	愛されずして沖遠く泳ぐなり	1	
佐怒賀正美	39	いくさ数多さりとて虹も無尽蔵	1	3
	39	空豆にファラオの眉の如きもの	1	
	39	弾力の残る地球を臺あゆむ	1	
石牟礼道子	19	祈るべき天とおもえど天の病む	2	2
桂 信子	19	たてよこに富士伸びてゐる夏野かな	2	2
関悦史	19	人類に空爆のある雜煮かな	2	2
田原千暉	19	落書に芽の出るような妻と十年	2	2
永田耕衣	19	白梅や天没地没虚空没	2	2
野ざらし延男	19	黒人街狂女が曳きずる半死の亀	2	2
林田紀音夫	19	鉛筆の遺書ならば忘れ易からむ	2	2
堀田季何	19	息白く唄ふガス室までの距離	2	2
成清正之	39	まだ風になれぬ少年青野にいる	2	2
飴山實	39	うつくしきあぎとあへり能登時雨	2	2
飯田龍太	39	一月の川一月の谷のなか	1	2
	39	月の道子の言葉掌に置くごとし	1	
大牧広	39	開戦日が来るぞ渋谷の若い人	1	2
	39	遠い日の雲呼ぶための夏帽子	1	
岸本マチ子	39	うりずんのたてがみ青くあおく梳く	1	2
	39	狼をとき放したりわが荒野	1	
神野紗希	39	カンバスの余白八月十五日	1	2
	39	起立礼着席青葉風過ぎた	1	
橋間石	39	噴水にはらわたの無き明るさよ	1	2
	39	階段が無くて海鼠の日暮かな	1	
松尾芭蕉	39	風流の初めや奥の田植歌	1	2
	39	さまざまの事おもひ出す櫻かな	1	
寺山修司	39	目つむりていても吾を統ぶ五月の鷹	1	2
	39	枯野ゆく棺のわれふと目覚めずや	1	
宮坂静生	39	白萩や妻子自害の墓碑ばかり	1	2
	39	田の泥の目鼻持たざる涅槃かな	1	
津田清子	39	無方無時無距離砂漠の夜が明けて	1	2
	39	はじめに神砂漠を創り私す	1	
大畑等	39	なんと気持ちのいい朝だらうああのるどしゅわるつねっがあ	1	2
	39	文鳥を手に載せ我ら何処へ行くのか	1	
田中裕明	39	空へゆく階段のなし稻の花	1	2
	39	水遊びする子に先生から手紙	1	